

## ことばの発達

こどもの発達に関する相談の中でも、「ことばの遅れ」というのは最も多いものです。

「ことばの遅れ」の背景には様々な要因が想定され、それらを適切に評価するためには、発達に関する多様な視点が必要です。そしてその背景を知ることにより、対応の方針をたて、予後を想定することが可能になります。そのためにもまず、今心配なことをひとつひとつ整理してみましょう。

### 1. 本当にことばの発達が遅いのでしょうか？

福祉保健センターの1歳6か月健診が近づいても、意味のある発語が全くみられなかったり、簡単な声かけや身近な物の名称が理解できない様子がある場合は、保健師さんに相談してみましょう。個性の範囲内として経過をみてもよさそうか、それとも小児科や専門機関に相談したほうがよさそうか、一緒に考えてくれます。

### 2. 耳の聞こえは気になりますか？

最近では新生児期に聴力検査が広く実施されるようになっており、また生活音全般に全く反応がない難聴の場合は早めに気づくことが可能です。しかし、周波数の高さによって聴力が残っている場合や、中等度～軽度の難聴では、「聞き返が多い」「ことばが一度で理解できない」と捉えられる可能性もあり、そのような場合は聴力検査を行うことが勧められます。また、一側だけの聴覚障害の場合は日常生活レベルで気づくことは難しいですが、人と話すときに片側に頭を傾げるなどの様子が見られる時は注意が必要です。

### 3. 発語以外の発達はどのようにですか？

発語が遅れていても、ことばの理解が優れていたり、

非言語的なコミュニケーション（視線や身ぶりでの理解や表現）が良好である場合は、経過観察になることが多くなります。

しかしことばの理解も遅い場合や、運動発達・おもちゃの操作・遊びかた・生活習慣全般にも遅れがある場合は、専門機関で発達検査・知能検査を行い、知的発達の水準を確認する必要があります。

また、コミュニケーションの質に著しい偏りがないのかも観察が必要です。具体的には「話してはいても“やりとり”として成立しにくい」「一方的に好きな話ばかりして相手の様子を見ない」「独り言や同じ言葉の繰り返しが多い」「聞こえているのに反応しない」などです。合わせて、「集団活動がうまくできない」「お友だちとうまく遊べない」などの心配がある場合は、発達障害を疑って早めに福祉保健センターなどに相談することをお勧めします。

### 4. 発音の問題は気になりますか？

発話の不明瞭さがことばの発達レベル相応である場合は経過観察になります。しかし言語発達に遅れがないにもかかわらず、年長が近づいてもその話し言葉を家族でも聞き取るのが難しいような場合は言語聴覚士に相談するとよいでしょう。その原因を調べるために耳鼻科や口腔外科の診察が必要になることもあります。

医療機関・専門機関に相談する時は、妊娠中や生まれた時の様子、今までにかかった病気、発達の経過（歩き始めや話し始めの月齢）、家族の状況などもうまく伝えられるように事前に整理しておくことと安心です。心配な時はそのままにせず、福祉保健センターやかかりつけの先生に早めに相談しましょう。